

別記様式第1号

「現場の創意工夫プロジェクト」計画書

《プロジェクト名 旧牛舎を再利用した菌床しいたけ栽培の導入による周年農業確立・規模拡大プロジェクト 》

市町村	大蔵村	対象地域	上竹野	分野	園芸
実施主体名	斉藤 貞美	代表者氏名		住所又は主たる事務所の所在地・連絡先	最上郡大蔵村
実施主体構成	個人				

プロジェクト目標（5年後）	産出額（増加額）	8,123千円（8,123千円）				
	独自の目標項目	冬期に新たに菌床しいたけ10,000玉の栽培を行う。 さらに、現在取り組み中の作物の水稲を210aから350a、夏秋トマトを22aから25aへ拡大する。				
各年次目標	現 状	1年目（H21）	2年目（H22）	3年目（H23）	4年目（H24）	最終年（H25）
	産出額	—	8,123千円	8,123千円	8,123千円	8,123千円
	菌床しいたけ	—	10,000玉 7,500kg	10,000玉 7,500kg	10,000玉 7,500kg	10,000玉 7,500kg
プロジェクト概要	◎実施方針	現在所有している旧牛舎を最大限活用して菌床しいたけを生産することにより、所得の拡大を目指す。				
	○産出額の増大	市場から出荷拡大を望まれている菌床しいたけを産出して、大蔵産の市場拡大を目指す。				
	○雇用の創出	（平成25年雇用人数 0.24人/日）				
	○創意工夫	旧牛舎の活用により、ビニールハウスの設置が内装のみとなるため、導入費用の低コスト化が図られ、冬期の耐雪化・防風対策等に大きな効果がある。さらに、収穫した菌床しいたけを入れる保冷库と包装機を導入することで、市場で求められている規格に応えられ、品質の保持もできる。また、肥育業で培ったノウハウを活かして、もみ殻暖房を導入することで、低コスト化を図っていきたい。				
	○実現性	JA山形もがみ菌床しいたけ部会に加入し、栽培技術を学びながら栽培が行なえることに加え、その技術の取得と向上が望めるとともに、安心安全で、よりおいしい農産物を生産できる。				
	○地域への波及効果	現在は水稲と夏秋トマト栽培を行っており、冬期に菌床しいたけを導入することで周年農業の確立のモデル農業体系となる。				
	○その他	現在、地域の担い手として大蔵村の認定農業者となっている。				

事業計画		実施年度（平成21年度）	実施年度（平成 年度）
	事業内容	ハウス導入・保冷库・包装機導入	